

平成30年度 行政評価表:道路河川課

【Plan】計画 / 【Do】実施															【Check】評価 / 【Action】改善															
施策名	事業名	事業・取組概要	事業評価の活動指標(目標・実績)						事業評価の成果指標(目標・実績)						H29年度 決算額 (千円)	H30年度 予算額 (千円)	H30年度 決算額 (千円)	事業成果の評価 成果向上 余地はあるか	評価の理由	コスト削減余 地はあるか	事業 評価	見直しの方向性(担当者評価)								
			H29年度			H30年度			H29年度			H30年度										1次評価(担当者評価)		2次評価						
			指標名等	単位	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	指標名等	単位	目標	実績								達成率	目標	実績	達成率	事業評価	評価の理由	R2年度予算要求の方向性	所属長評価	
道路・交通 体系の整備	道路管理事業 (単独)	市道の整備、補修、改良等の維持管理を行う。	補修整備延長	m	950	851	90%	950	767	81%	市道に於ける管理瑕疵に起因する交通事故件数	件	0	0	0%	0	0	0%	112,575	101,540	91,642	なし	当事業の実施により、道路利用者の安全で快適な通行に十分成果を発揮しており、これ以上の向上余地は無い。	なし	道路施設の老朽化による整備箇所の多量化、また、道路における市民の整備要望の増加により削減余地はない。	拡大	経年劣化等により道路施設は老朽化し、市民の要望も多種多様であり、交通の安全を確保する上で拡大する必要がある。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	約950の市道の維持管理を行う事業であり、年々老朽化が進む施設の維持管理を行っており、利用者である地元、市民からは多くの報告や要望が出されており、歩行者や通行車両の安全を確保するためには現予算では不足している。
道路・交通 体系の整備	道路管理事業 (社会資本整備総合交付金)	道路照明、標識、斜面等防災施設を対象とした道路ストック総点検の結果に基づき計画的な補修を行う。	防災施設の補修	箇所	1	0	0%	1	1	100%	市道に於ける管理瑕疵に起因する交通事故件数	件	0	0	0%	0	0	0%	0	77,778	19,790	なし	当事業の実施により、道路利用者の安全で快適な通行に十分成果を発揮しており、これ以上の向上余地は無い。	なし	道路施設の老朽化による整備箇所の多量化、また、道路における市民の整備要望の増加により削減余地はない。	拡大	必要性、緊急性を考慮し事業を実施中であり、道路交通の安全確保のためには拡大すべきである。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	整備から40～50年経過した道路の付属施設や斜面防災施設は、経年により老朽化が進行し、十分な安全が保たれていない、特に緊急避難道路等に指定している斜面防災施設の整備については、国において平成30年度から3年間で整備することとされているため来年度中の完了が必須である。
道路・交通 体系の整備	市道改良事業 (単独)	緊急性、必要性等を考慮し選定した路線の拡幅改良整備を行う。	整備路線数	路線	1	3	300%	1	2	200%	道路通行の安全性の向上(整備延長)	m	120	260	217%	20	234	1170%	14,191	14,000	13,996	なし	当事業の実施により、道路利用者の安全で快適な通行に十分成果を発揮しており、これ以上の向上余地は無い。	なし	道路施設の老朽化による整備箇所の多量化、また、道路における市民の整備要望の増加により削減余地はない。	拡大	必要性を考慮した事業路線の選定に努めているが、市民の要望は多く、道路交通の安全確保のためには拡大すべきである。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	市内には、幅員が狭くカーブなどで十分な視距が確保されず、救急車や消防車など緊急車両の進入ができない路線や箇所が多く、地元や市民から多くの要望が出ている。安全な通行を確保するためにも早急な整備が必要である。
道路・交通 体系の整備	市道改良事業 (道整備交付金)	道整備交付金を活用し、市道重橋・中山線と東田代・相知線の道路整備を行う。	整備完了路線数	路線	1	1	100%	1	0	0%	道路通行の安全性の向上(整備延長)	m	110	183	166%	820	369	45%	8,316	49,283	21,217	なし	当事業の実施により、道路利用者の安全で快適な通行に十分成果を発揮しており、これ以上の向上余地は無い。	なし	国、県等の他事業者との連絡調整を行い、各事業間で残土の調整やコスト削減を図っており、現時点でコスト削減の余地は無い。	拡大	必要性、緊急性を考慮し事業を実施中であり、道路交通の安全確保のためには拡大すべきである。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	地域間道路ネットワークを整備することにより、交通の利便性はもとより緊急時の避難道路を確保し、市民の安全安心を確保し、観光、文化交流の向上を目指すためにも必要な事業である。
交通安全 対策の推進	交通安全施設整備事業(単独)	交通安全施設の内、二種事業(区画線、防護柵等)を実施し、交通安全に寄与する。	交通安全施設の設置	m	2,500	3,140	126%	2,500	6,890	273%	交通安全施設の不備による交通事故件数	件	0	0	0%	0	0	0%	5,475	5,480	5,480	なし	当事業の実施により、事故件数の減少、歩行者の快適な通行に十分成果を発揮している。事業予算の増額により、市民の要望をより実施できる。	なし	現施設を再利用したり、直営で出来る分は直営施工と行っており、これ以上の削減余地は無い。	拡大	年々増える市民の要望は多種多様しており、また、通学路の安全対策は重要視され、要望に対し十分な対応は出来ていない。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	歩行者や通行車両が安全で安心して通行できるよう、区画線や防護柵などを整備しているが、老朽化や摩耗などにより修理や改良を必要とする箇所は増加の一途をたどっている。施設の管理不足による事故の発生を防ぐためにも十分な予算の確保が必要である。
交通安全 対策の推進	交通安全施設整備事業(社会資本整備総合交付金)	安全で快適な生活道路の空間づくりのため、交通事故の減少と歩行者及び通行車両の安全確保のため、交通安全上必要な箇所の整備を行う。	整備路線数	路線	3	3	100%	2	2	100%	道路通行の安全性の向上(整備延長)	m	930	833	90%	50	320	640%	132,968	43,602	43,602	なし	当事業の実施により、事故件数の減少、歩行者の快適な通行に十分成果を発揮している。事業予算の増額により、市民の要望をより実施できる。	なし	現道幅員内での整備や、最小限の用地買収、既存施設の再使用をするなど、現時点で考えられる最も経済的な手法を取り入れている。	拡大	年々増える市民の要望は多種多様しており、また、通学路の安全対策は重要視され、要望に対し十分な対応は出来ていない。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	歩行者や自転車、車両が安全に利用できるよう、歩道等の整備を行っているが、通学路として利用されている道路においても十分な整備ができていない状況であり、早急な整備が必要である。
道路・交通 体系の整備	橋りよう管理事業(単独)	伊万里市橋梁長寿命化修繕計画に該当しない橋梁(橋長7m未満)等の更新や橋梁新設を行う。	橋りよう補修箇所数	橋	3	7	233%	3	5	167%	市道橋に於ける管理瑕疵に起因する交通事故件数	件	0	0	0%	0	0	0%	2,071	1,104	540	なし	当事業の実施により、道路利用者の安全で快適な通行に十分成果を発揮しており、これ以上の向上余地は無い。	なし	道路施設の老朽化による整備箇所の多量化、また、道路における市民の整備要望の増加により削減余地はない。	拡大	経年劣化等により橋梁の老朽化は進行している。市民の要望も多種多様であり、交通の安全を確保する上で拡大する必要がある。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要のため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	市内の約740橋の橋梁のうち、経年劣化により補修等が必要な橋梁は増加しており、利用者の安全な利用のためにも、十分な予算を確保する。

平成30年度 行政評価表:道路河川課

【Plan】計画 / 【Do】実施																		【Check】評価 / 【Action】改善												
施策名	事業名	事業・取組概要	事業評価の活動指標(目標・実績)						事業評価の成果指標(目標・実績)						H29年度			H30年度			事業成果の評価		予算・コストの評価		見直しの方向性(担当者評価)					
			指標名等		H29年度		H30年度		指標名等		H29年度		H30年度		決算額 (千円)	予算額 (千円)	決算額 (千円)	成果向上 余地はあるか	評価の理由	コスト削減 余地はあるか	事業 評価	1次評価(担当者評価)		2次評価						
			指標	単位	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	指標	単位	目標	実績								達成率	目標	実績	達成率	事業評価	評価の理由	R2年度予算要求の方向性	所属長評価	
道路・交通体系の整備	橋りょう管理事業(社会資本整備総合交付金)	平成21年度に実施した橋梁点検の結果に基づき、橋梁長寿命化計画を策定(平成24～25年度)し、補修工事を平成27年度から取り組むこととなった。橋梁長寿命化計画を基に、長寿命化補修工事並びに橋梁点検を行う。	橋梁補修	橋	3	1	33%	4	1	25%	市道橋に於ける管理瑕疵に起因する交通事故件数	件	0	0	0%	0	0	0%	49,287	68,866	40,176	なし	当事業の実施により、道路利用者の安全で快適な通行に十分成果を發揮している。事業予算を増額すれば、より計画的に効果を上げることが出来る。	なし	コスト削減のため、伊万里市直営による定期点検も実施しており、現時点で考えられる最もコストを抑えた手法を取り入れている。	拡大	終年劣化等により橋梁の老朽化は進行している。市民の要望も多種多様であり、交通の安全を確保する上で拡大する必要がある。	道路施設の維持や交通安全の向上は必要なため、引き続き道路・交通体系の整備は継続して事業を行う。	拡大	市内の約740橋の橋梁のうち、経年劣化により補修等が必要な橋梁は増加しており、利用者の安全な利用のためにも、十分な予算を確保する。
安全で快適な地域づくり	河川局部改修事業	自然環境に配慮し、河川護岸の整備、築堤や河床の掘下げなどを年次的に実施していく。 平成30年度は、普通河川コグエ川の改修工事を計画する。 事業名 市単独事業 事業延長 全体延長34.5m 事業期間 平成30年度～令和元年度 (内訳) 本工事 一式	局部改修河川数	河川	1	1	100%	1	1	100%	浸水家屋の解消	戸	1	1	100%	0	0	0%	1,617	2,784	2,581	高	小河川の災害危険箇所や狭小部の改修を行うものであり、改修工事により治水上の安全が確保できる。	なし	測量設計は直営で実施し、諸経費削減のため市単独諸経費を採用するなどコスト削減に努めている。	拡大	治水機能を改善すべき河川が多くあり、河川周辺に住む住民の生命、財産等を保全するには事業の拡大が必要である。	コグエ川については、本年度完了予定であり、新たに新規路線の改修を計画する。	拡大	市内には、未整備の河川が未だ多くあり、安全で安心な生活を確保するため、事業の拡大が必要である。
安全で快適な地域づくり	都市計画道路整備事業(大坪小学校線)	県道伊万里停車場線を起点とし、大坪小学校の東側をとおし、途中都市計画道路陣内白野線と交差し、大坪木須線を終点とする幹線道路を計画する。 事業名 社会資本整備総合交付金事業 事業期間 平成26年度～平成35年度 総事業費 835,000千円 事業延長 870m 道路幅員 12.0m (内訳) 本工事 一式 用地面積 11,170㎡ 補償費 家屋 7戸	工事の進捗率	%	2	17	850%	26	26	100%	通行量	台/日	670	670	100%	670	670	100%	58,654	75,517	75,516	高	現状では現道のみでの通行であるが、全線完了後は車両及び人の通行量が増加すると共に、安全に通行できるようになることから、成果向上余地は高い。	なし	計画段階でコスト削減にも十分配慮しており、また、盛土材についても公共工事発生土を利用するなどコスト削減に努めている。	改善	予算削減や国費削減に伴い、H35年度完了に向けての進捗が非常に厳しい状況である。今後、国の動向を踏まえ年間事業費の見直しを行い、事業の進捗を図る必要がある。	令和2年度末に北工区(L=440m)供用開始を行う予定であり、その予算確保を行う。	改善	栄町、つつじヶ丘地区の通学、通勤道路であり、児童、生徒の安全確保が必要である。
安全で快適な地域づくり	都市計画道路整備促進事業(大坪木須線)	県営事業で実施される都市計画道路大坪木須線の事業費の一部を負担するものである。 事業名 社会資本整備総合交付金事業 事業期間 平成24年度～平成30年度 総事業費 C=1,006,897千円 負担割合 15% 事業延長 630m 道路幅員 22m (内訳) 本工事 一式 用地費 A=14,685㎡ 補償物件 N=5戸	道路整備の進捗状況	%	100	100	100%	100	100	100%	道路整備の進捗状況	%	100	100	100%	100	100	100%	9,750	1,040	1,040	なし	事業費に対して一定の負担金を納める事業であり、向上余地はない。	なし	事業費に対して一定の負担金を納める事業であり、削減余地はない。	完了	H30年度事業完了した。	予算要求なし	完了	予算要求なし